

編集後記

わかっていても、最近どうしても引かかってしまう言葉がある。コロナ禍でよく使われるようになった「不要不急」である。人と人との接触を抑えるために「不要不急の外出は控えてください」と呼びかける報道は、毎日のように耳にする。広辞苑で調べると、「不要不急」とは読んで字の如く「どうしても必要というわけでもなく、急いである必要もないこと」という意味らしい。自然と多くの場面で使われるようになり、つい先日、診療体制が逼迫してきた状況で病院の事務方から「不要不急の手術は延期してもらうかもしれません」と連絡が来た。私が大いに不満だったのは「不急」の前に接頭語のようについてくる「不要」の2文字である。確かに骨関節の変性疾患の手術は待機的なものが多いが、「不要」と言われると腹が立つのも人情であって、「緊急ではないかもしれないが、不要とは何だ!」と気色ばんでしまった。われわれもそれなりに医療と病院経営に貢献しているつもりなのに、「不要」はないでしょうと言いたかったのである。しかしながら、ほぼセットになってしまった「不要不急」を使う先方にすんなりとは私の意図は通じず、漢字の意味ま

で説明する羽目になってしまった。細かいこととは知りつつ、また世の事情・病院の事情は十分に理解しているつもりだが、せめて「不急」「緊急性が低い」くらいにしてほしいと思う。ちなみに広辞苑には「不急」もちゃんと載っている。

さて、今月の特集テーマは名古屋大学の建部将広先生にご企画いただいた「月状三角骨障害の診断と治療」である。手関節痛の重要な鑑別診断の1つであるものの、精通している整形外科医は意外と少ないのではないかと想像する。建部先生の言葉を借りると、手関節尺側部痛は「かつて手関節の腰痛とも称された」ものの、各種画像診断の進歩や解剖学的な知見の集積により、病態が次々と明らかになっていると述べられている。今回の特集では9名の先生方に月状三角骨の解剖、バイオメカニクス、月状三角骨障害の理学的所見、画像診断、治療に至るまで系統的に詳しく述べていただいた。月状三角骨障害の最新知見に触れていただき、読者の明日への日常診療につながっていくことを期待する。

(中島康晴)

「整形・災害外科」第64巻 第8号 (7月号) 2021年7月1日発行 (毎月1回1日発行) 定価 2,860 円 (本体 2,600 円+税 10%) 年間購読料金 定価 44,660 円 (本体 40,600 円+税 10%) 〔年間13冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。